

もゆる浪漫

山形市立第八中学校たより
第9号 校長 長沼 政直
令和7年1月21日 発行

新年のスタートにあたって

13日間の冬休みを終え、3学期が1月8日に始まりました。今年は巳年、いわば蛇が脱皮しながら成長するように、八中生には、学校・家庭・地域で、多くの経験をしながら、一回りも二回りも大きく成長することを期待します。

さて、始業式で、常日頃子どもたちに話している非認知能力について、新春に行われる「箱根駅伝」に関わらせ、次のような話をしました。(以下は概要)



「青山学院大学(青学)から学びたいこと」というテーマで話をします。優勝した大学だというだけでなく、昨年度、山形市出身の志貴勇斗選手がキャプテンだったことも理由の一つです。

青学が強いのは、明るく自由な雰囲気や監督が大切に、選手が主体的に練習するからだと言われます。しかし、青山学院の本来の強みは、厚みのある選手層、山登りや山下りに強い選手の育成、個性の尊重と強い団結力、監督の巧みなモチベーションの持たせ方であり、これらを組み合わせて圧倒的な強さを見せつけるのです。

そこで、私は、青学の箱根駅伝での成功について、非認知能力に照らして考えてみました。

箱根駅伝は、一人約20km走る過酷なレースです。レースに臨むために厳しいトレーニングや食事管理、睡眠管理等、ランナーにとって必要なことが沢山あります。ですから、選手には、必要なことを継続してやるため、自分の心を調節する力が求められることが分かります。

また、箱根駅伝は一朝一夕で力がつく競技ではなく、長期的な目標達成への情熱と日々の地道な努力が求められます。そこには、持続力と粘り強さがなくてはならず、青学の選手たちは、この力をも十分発揮しました。

視点を変えると、駅伝は全体の力が試されるスポーツでもあります。ですから、選手たちは、協働性、リーダーシップ、フォロワーシップ、共感力に優れた人間といえます。先ほど話した青学キャプテンだった志貴選手は、実は怪我で最後の箱根に出られませんでした。しかし、献身的にチームを支え、誰からも尊敬され、感謝される存在でした。

そして、失敗や挫折を経験しても、それから立ち直る力、つまりレジリエンスも駅伝選手には欠かせません。駅伝では、一区間で大きく遅れることがあっても、次の区間で取り戻そうと、精神的プレッシャーをはねのけ、次の挑戦に立ち向かえる力が必要です。

これらの非認知能力が、青学の個々の選手の実力を向上させ、全体としての強さも支えました。非認知能力に優れた選手が集まり、精神的に大人の集団だったから、前向きさや謙虚さが生まれ、その結果、自由で明るい雰囲気を生んでいるのです。自由に、好きなようにさせるだけでは成果を残せるものではありません。選手が自分磨きを行い、チームとして結束し、主体的に厳しい練習に取り組んだことで今回の優勝につながったと私は思うのです。

これから3年生は、いよいよ本格的に高校受験が始まります。この試練に打ち勝てるよう、自分の心を調節する力に磨きをかけてください。また、2年生は、最上級生として新1、2年生を引っ張る責任のある学年になります。自分のことだけでなく、全体を考えて行動できるようにリーダーシップや共感力を高めてください。そして、1年生は、新入生の先輩になり、同じ3階で生活します。新入生の良いお手本として、「なんか2歳ぐらい年が上に感じられるなあ」「安心してついていけるなあ」と思われるよう、自分磨き、学級磨きに励んでください。

3学期は次のステージに進む準備の学期、別名「0学期」と呼ばれます。この0学期を大切にしてください。

3年生の先輩たち、頑張り 進路激励会

1月10日(金)に進路激励会が行われました。3年生から引き継いだ生徒会の初めての大きな企画でした。企画した計画をもとに1, 2年生がしっかり準備し、団結できたことで、心温まる、素敵な会となりました。

1, 2年生は、常日頃お世話になっている3年生が、受験に向け、放課後、自主学習会に取り組んでいる姿を見ています。精一杯の激励応援をする姿や、合格祈願の「絵馬」や「メッセージ花束」を先輩に渡す場面から、最後まで精一杯頑張りたいという強い思いが伝わってきました。



八中生の様々な分野での表彰を紹介

- 山形市中学校スポーツ教室
バレーボール1年生大会
第2位 男子バレーボール
- 令和6~7年度山形県中学校体育・
スポーツ優秀指定選手
男子バレーボール 2年 石澤 大雅
2年 齋藤 晴翔
2年 清野 啓太
- 山形市中学校読書感想文コンクール
佳作 2年 庄司 絢音
題名「受け継いでいく伝統と文化」
入賞 3年 安達 璃都
題名「幸せの価値」
入賞 1年 吉田悠空
題名「命のものさし」
- 第51回山形市子ども造形展
入選 1年 室井 咲希
題名「日常」
入選 2年 阿部 如乃
題名「あと2年」
入選 2年 大塚 まり
題名「金色の毛並みを持ちし龍」
入選 2年 加藤 羽多
題名「ヒベリカム」
入選 3年 後藤 花嘉
題名「未来をみつめるわたし」

- 「小さな親切」作文コンクール
佳作 3年 開沼 春菜
佳作 3年 高橋 晴夏
佳作 2年 石澤 大雅
佳作 2年 城戸口 凜
佳作 2年 笹原己羽空
- 「いじめ・非行をなくそう」やまがた県
民運動に係るいじめ防止標語
優秀 1年 高橋 瞳人
- 人権作文コンテスト
山形地区 奨励賞 3年 後藤花嘉



※ 外部で活動し、表彰を受けた等で、みなさんに紹介するもの等、ございましたら、担任の先生までお知らせください。